

#### IV. 大学が使命・目的に基づいて独自に設定した基準による自己評価

##### 基準 A 特色のあるカリキュラムの開発

###### 《Aの視点》

##### 独自の実践力向上カリキュラム「DiCoRes プログラム」の開発

- ①4年間の学びを見通したカリキュラムの再編成
- ②アクティブ・ラーニングの拡充と質の向上
- ③教学マネジメント体制の構築

###### (1) Aの自己判定

「基準項目 A」を満たしている。

###### (2) Aの自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

###### 【事実の説明】

本学は、実学による専門実務能力と共生協調の能力との一体化を理念とした大学教育を実施している。これを、特色あるカリキュラムとして構造化し可視化していくために、独自の実践力向上カリキュラム「DiCoRes プログラム」を開発し、4年間を見通したカリキュラムとして再編成した。このプログラムは、平成 25 年度に経済産業省「社会人基礎力を育成する授業 30 選」を受賞し、一定の社会的評価を得た。

現在、「DiCoRes プログラム」は一定の枠組みの中で、学科の特性に応じて学科別に開発され、全学実施されている。さらに、本学学生の学修・生活状況の現状把握から、カリキュラムとして展開する必要性が高いと判断された「長期学外学修プログラム」について、プログラムの新規開発を行い、「DiCoRes プラス」として位置づけた。このプログラムは、文部科学省「大学教育再生加速プログラム（テーマⅣ長期学外学修プログラム）」として採択された（平成 27 年度）。平成 28 年度より、本学の特色あるカリキュラムとして、すでに全学実施されている「DiCoRes プログラム」に加え、約 1 ヶ月間にわたってフィールドスタディに取り組む「DiCoRes プラス」を実施した。

【資料 A - 1】 【資料 A - 2】 【資料 A - 3】 【資料 A - 4】

###### 【経緯】

（平成 23 年度）

子どもコミュニケーション学科にて、実践力向上カリキュラム「DiCoRes プログラム」を開発実施。

（平成 25 年度）

- ① 私立大学等改革総合支援事業「タイプ 1 建学の精神を生かした大学教育の質の向上（大学教育質転換型）」採択
- ② 経済産業省「社会人基礎力を育成する授業 30 選」に選出、受賞

（平成 26 年度）

- ① 文部科学省「大学教育再生加速プログラム」申請、不採択

② 大学教育改革委員会の新規設置（委員長：学長）、大学企画調整室の新規設置

（平成 27 年度）

文部科学省「大学教育再生加速プログラム（大学 AP、テーマⅣ長期学外学修プログラム）」採択

（平成 28 年度）

長期学外学修プログラム「DiCoRes プラス」新規実施

（基礎プログラム：フィリピン・ダバオ市／北遠、発展プログラム：自主企画）

### 【基準 A の自己評価】

特色あるカリキュラムの開発は、全学的なカリキュラムの見直しをもとに、本学の使命・目的にもとづいて強力に進められた本学の大学教育改革の一つである。全学的なカリキュラムの見直しを通じて、学部名である「コミュニケーション」を、

「Dialogue and Collaboration with Responsibility（責任ある対話と協同）」と独自に定義し、その頭文字から「DiCoRes」を造語して、すべてのカリキュラムに通底する編成原理に据えた。この共通理念を据えることで、4年間を見通したカリキュラム編成を行い、各学科の専門性を超えて、学部としての一体感を生み出すことができた。

また、「DiCoRes プログラム」の開発過程や、経済産業省事業受賞及び文部科学省事業採択などの社会的評価を通じて、教員間でも大学での教育方法に関する認識や議論が活性化し、先進的な取り組みを行う他大学の事例研修や、他教員相互の授業参観にもとづく意見交換を行う FD の強化が図られた。

さらに、カリキュラム開発や国の補助事業への申請などにあたっては、学長の強いリーダーシップに基づいた全学的な教学マネジメント体制が不可欠であり、その核となる組織として大学教育改革委員会（委員長：学長）を設置した。また、教学マネジメント体制の構築にあたって、教職協働の観点から、総務・入試グループ、教務グループ、学生支援グループを統括する大学企画調整室が設置され、大学教育改革委員会の事務局を担当する体制を整えた。

これらの組織が中心となり、高大接続改革を踏まえた改革構想の策定や、長期学外学修プログラム「DiCoRes プラス」を円滑に実施するための学外組織・団体との連携協定の締結など、特色あるカリキュラム開発を一体的に推し進めることができた。

以上より、「基準 A を満たしている」と評価する。

【資料 A - 5】 【資料 A - 6】 【資料 A - 7】 【資料 A - 8】 【資料 A - 9】 【資料 A - 10】

### (3) 基準 A の改善・向上方策（将来計画）

実践を多く取り入れた本学のカリキュラムにとって、最大の課題は学修成果の可視化（評価方法を含む）である。この課題の改善方策として、「DiCoRes プラス」における学修成果の可視化に先行して取り組み、その成果を全学対象の「DiCoRes プログラム」へと適用する計画である。

「DiCoRes プラス」における学修成果の可視化に向けて、大学教育再生加速プログ

ラムの中間評価年度（平成 29 年度）、および、最終評価年度（平成 31 年度）を目安に、現在、評価指標の開発に取り組んでいる。具体的な方法としては、第一に、大学教育再生加速プログラム既採択校（テーマⅡ・学修成果の可視化）の成果に学び、本学の評価指標の開発に積極的に活用する。平成 27 年度には、富山短期大学の報告聴講（平成 27 年 10 月 29 日）、北九州市立大学のシンポジウム参加（平成 28 年 1 月 23 日）により、学修成果の可視化に向けた具体的な方法や課題について、採択校間での情報収集・交流を進めているところである。

第二に、小規模大学の強みを生かし、「DiCoRes プラス」参加学生、担当教職員、受け入れ先関係者などの評価や意見を丁寧に収集することで、実践型プログラムでの学修成果について本学独自に言語化する。平成 28 年度には、初めて実施された「DiCoRes プラス」に対して、担当した教職員による評価・反省会の記録、参加学生自身のふり返り（レポート等）での表現、受け入れ先関係者へのヒアリング、事業報告書の刊行など、学修成果に関する言語化を含んだ資料を多数作成してきた。これらの分析検討を重ねることで、本学独自のカリキュラムである「DiCoRes プラス」および「DiCoRes プログラム」に整合した評価指標を作成する計画である。

また、平成 28 年度より、地域共創学科への入学予定者（高校 3 年生）を対象に、本学の学修方法を理解し慣れるための入学前講座「アクティブ・ラーニング入門」を実施している。本講座を修了した学生は、入学後に申請することで卒業に必要な履修単位（1 単位）として認定されるもので、高校での学びと大学での学びを連続的なものにする点で重要な学修機会になっている。

### **【エビデンス集 資料編】**

- 【資料 A - 1】 DiCoRes プログラム全体像
- 【資料 A - 2】 社会人基礎力を育成する授業 30 選表彰状
- 【資料 A - 3】 DiCoRes プラス概要
- 【資料 A - 4】 AP テーマⅣ採択校一覧
- 【資料 A - 5】 大学教育再生加速プログラム（テーマⅣ）平成 28 年度事業報告書
- 【資料 A - 6】 浜松学院大学大学教育改革委員会規程
- 【資料 A - 7】 浜松学院大学大学企画調整室規程
- 【資料 A - 8】 「高大接続改革推進事業」計画
- 【資料 A - 9】 浜松市天竜区勝坂地域と浜松学院大学との連携に関する協定書
- 【資料 A - 10】 フィリピン共和国ダバオ市教育局との合意書